

これを読めば 今がわかる

いしのまき普及センター通信

Fuikyū

特集

チャレンジ！水田露地園芸
～高収益作物へシフト～

管内のトピックス

- ・トマト黄化葉巻病、トマトキバガ
- ・優良麦種子の生産
- ・みやぎ農業未来塾の開催
- ・スリムねぎを「みやぎ水産の日」に販売

新指導農業士紹介


【特集】チャレンジ! 水田露地園芸～高収益作物へシフト～

国民一人当たりの米の消費量は下がり続け、令和4年には50.9kgまで減少しました。こうした状況を踏まえて国では作物の生産基盤である水田を永続的に維持していくために、水田転作を奨励してきました。地域の特色を生かした品目の導入による産地づくり等を踏まえて、近年では野菜等高収益作物生産への一部転換を図っており、宮城県でも米から園芸品目へのシフトで農業所得の向上を推進しています。

今後、石巻管内で栽培拡大が期待される露地園芸3品目と子実用とうもろこしの導入事例を紹介します。

露地園芸3品目


ばれいしょやたまねぎはカレーライスの具材としてなじみの野菜ですが、世界的な気象災害の頻発や紛争等の影響で外国産原料の確保に係るリスクが高まり、多くの食品メーカーが安定的に確保が可能で輸送コストも安く済む国産原料を求めようになりました。特に需要の大きい以下の3品目についての取組が進められています。

 **ばれいしょ**は、菓子メーカーが原料の調達を県内で始めたことをきっかけに、当管内では平成25年から取組が始まりました。特に平成27年から水田3haで生産を開始した農事組合法人おおしお北部(東松島市)は単収3tと好成绩をあげたことで、翌年に作付面積を9haに拡げ、は種や収穫用の大型機械を導入して一気に規模拡大が進みました。

安定した販路が確保されていることから、令和3年からはおおしお北部以外の法人も加わり、令和5年現在で管内の作付面積は41.4ha(4法人)となり、今では宮城県で有数のばれいしょ産地となりました。



▲ ばれいしょ収穫の様子


 **さつまいも**は、令和元年頃に石巻市河南地区で取組が始まり、農協の営農指導や農家同士の口コミで、その後じわじわと作付面積が拡大し、現在は7ha弱となりました。こちらも水稲や大豆との作業競合が少ない品目であり、作業時期を逃さなければ良品が栽培できます。

一方で生育期間中には、平均気温が15℃以上必要なことからどうしても一般作物の定植にあたる「苗挿し」は5月の下旬以降にならざるを得ず、初霜が降る前の10月中旬頃までに収穫しなければなりません。このため県内での栽培は、さつまいもの栽培期間が短くなることから、いかに適期に植え付けられるかが、高収量へのカギになります。

販路はJA系統出荷や自家販売となっていますが、加工特性の高さと「干しいも」人気に支えられ、販売は堅調に推移しています。



▲ さつまいも収穫の様子

 **たまねぎ**は、通常9月に種をまいて育苗し、11月に畑に定植し、翌年の6月に収穫する作型が一般的ですが、栽培の手間を省くために近年県内でも「直は栽培技術」が取り入れられています。管内でも今年から「たまねぎの直は栽培」に3法人(60a)が試験的に取り組んでいます。

苗立ちは今のところ順調で今後は状況に応じて除草作業を行い、来年6月の収穫を目指しています。



▲ たまねぎの芽生え

水田転作作物としての露地園芸3品目を紹介しましたが、作目ごとに排水対策や病害虫対策など乗り越えるべきハードルがいくつかあります。当普及センターでは今後も栽培技術の定着や効率的な作業体系の確立など取組農業者を支援していきます。

「徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策」

子実用とうもろこし



子実用とうもろこしは、国産飼料確保だけでなく栽培に手間がかからないことや、地力増進が期待されることなどから、水田の新たな転作作物として注目されており、桃生地区では、令和4年から2法人が子実用とうもろこしの試験栽培に取り組んでいます。

令和4年度の収量は約400kg/10aと低く、虫害が多い、収穫時期が遅い、リールヘッダーでの収穫ロスが多い、の3つの課題が挙げられました。令和5年度は、これらを解決するためドローンにより殺虫剤を散布し、昨年より1か月早い9月下旬に専用収穫機「コーンヘッダー」で収穫したところ、収量は約870kg/10aと格段に向上しました。

面積を拡大する場合は乾燥施設が必要となるなど課題はありますが、補助金等も活用しながら地域の転作作物の一つとして定着するよう今後も支援を続けていきます。



▲ 成長した子実用とうもろこし



▲ 収穫作業(左:R4リールヘッダー、右:R5コーンヘッダー)

管内のトピックス

新たなトマト病害虫に注意！

昨年、宮城県内で初確認された「トマト黄化葉巻病」と今年7月に同じく初確認された「トマトキバガ」が管内でも確認されています。

「トマト黄化葉巻病」はタバココナジラミが媒介し、生長点を含む上位葉の葉縁部からの黄化と葉巻症状や縮葉を呈します。発病前の果実は正常に発育しますが、発病後は落花や未着果が多くなり、生育初期に感染すると収穫皆無となることのある要注意病害です。

「トマトキバガ」は幼虫が莖葉や果実を食害しますが、管内での被害はまだ確認されておらず、薬剤防除が可能です。

病害虫の発見時には適切な対処と、日頃からの薬剤のローテーション散布や防虫ネットなどによる防除を徹底しましょう。



▲ トマト黄化葉巻病の病徴

今年も順調！優良麦種子の生産

石巻地域は県内最大の大麦の産地であり、令和5年産大麦は777ha作付けが行われ、大麦の採種ほ場は約40haとなっています。管内では5法人が種子大麦の生産を担っています。

当普及センターでは、条例に基づき、2回のほ場審査(出穂期、糊熟期)と生産物審査(発芽率、被害粒)を行い、優良種子の生産を支援しています。審査の結果、令和5年産は全量が合格となっています。

令和6年産の種子生産においても適切な栽培指導と審査により優良種子の安定生産を支援していきます。



▲ 管内の種子大麦生産ほの様子

農薬は、ラベルを確認して、正しく使用しましょう。

みやぎ農業未来塾の開催～石巻北高校との連携～

普及センターでは、管内の高校生や新規就農者に農業技術や流通販売等の研修を通じて、農業への理解を深め、進路選択の参考にしてもらおうと「みやぎ農業未来塾」を開催しています。

今年度は、6月に石巻北高等学校食農系列の3年生が「株式会社ぱるファーム大曲」(東松島市)で麦栽培を、9月には2年生が「有限会社サントマト石巻」(石巻市)で大型施設園芸のトマト栽培を視察しました。

参加した生徒は、スマート農業機械の自動操舵や大型乾燥調製施設、養液栽培システムによる大規模トマト栽培などを見学し、驚きや興味を示しながら熱心にメモをとっていました。生徒たちからは「農業の機械化がこんなに進んでいるとは知らなかった」、「土を使わない栽培もあるんだ」などの声が聞かれ、3Kのイメージが払拭され農業への理解が深まった様子でした。



▲ (株)ぱるファーム大曲



▲ (有)サントマト石巻

相性バツグン! スリムねぎと水産の連携

今年度から始まったプロジェクト課題では、桃生スリムねぎ部会青年部員の方々を中心に、土壌診断等の技術指導や、新たな販路開拓の支援等を行っています。今回、異業種との交流を図ろうと、石巻合同庁舎で毎月第3水曜日の「みやぎ水産の日」に開催される、水産物・水産加工品の直売会への部会の参加を支援しました。

当日は、小ねぎとの相性が良い「鰹のたたき」が販売され、新鮮で香りの良い桃生スリムねぎと、鰹のたたきを併せて購入される方が多く見られ、大盛況のうちに完売しました。参加された青年部員の方は、水産加工業者の方とのつながりによる相乗効果を感じた様子で、今後も新たな連携の展開を検討しています。



▲ みやぎ水産の日でのスリムねぎ販売の様子

令和5年度新しく認定された農業士を紹介します!

県では、優れた農業経営を実践して、地域農業の振興及び農村青少年等の育成に貢献している農業者を「農業士」として認定しています。石巻地域から令和5年度は指導農業士2人が認定されました。



☆指導農業士 今野茂昭さん(地域:石巻市 部門:水稲)

- 北上地区の(株)ゆいっこで、水稲・転作部門の作業全般及び経理、ほ場管理システムを担っています。
- 東日本大震災で被災した北上町の農業の復旧・復興を担う法人の役員として水稲や大豆、無人ヘリ防除等の大規模経営に携わり、地域農業の振興に貢献されています。



☆指導農業士 佐々木勝行さん(地域:石巻市 部門:水稲)

- 北上地区で水稲を中心に長ねぎ等の露地野菜を組み合わせた複合経営をしています。地元の酪農家と稲わら・堆肥を交換し、耕畜連携による土づくりに取り組まれています。
- 地域の水稲を受託する担い手であるとともに、石巻市農業委員会農地利用最適化推進委員を務め、地域農業の振興に貢献されています。

